

1.園の教育目標

| |
|---|
| <p>1 滝川幼稚園は、仏教精神(素直・仲良く・おもいやり)による保育を実践し、一人ひとりが健康で、 友達と明るく仲良く生活でき、完成豊かな子どもに育つことを目標としています。</p> <p>2 広々とした園庭でのびのびと遊び自然との関わりを大切に健康な身体と豊かな感性をやしないます。</p> |
|---|

2. 本年度に 定めた重点的に取り組む目標や計画

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を通して豊かな感性を 育む保育を実践する。 ・日々の保育の振り返りを しっかりと行い 一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を心がける。 |
|--|

3. 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 取組み状況 |
|--|---|
| 幼稚園教育要領を踏まえ 園の教育理念・教育方針に従い 保育計画をしている。 | 園の教育理念が日々の保育の中に反映されるよう計画をたて実践出来る様努力して 取り組んでいる。新教育要領に添って自園の特色を活かしつつも時代にあった内容 にしながらも幼児教育の骨格はぶれない様にしている。 |
| 教育要領・教育課程、子どもの実態 などをもとに考えて作成している。 | 毎年指導計画に加筆・訂正を行い子どもの実態に即した内容にするよう努めている。 新教育要領の10の姿を意識した内容にするとともに子ども達の姿に適した保育 内容に するなど工夫をしている。 |
| 子ども達が、遊びを通して様々な 事柄を体験し楽しめる広がり を持った保育ができるようにしている。 | 子ども達が興味を持った遊びを発展し年齢にふさわしい体験が出来るように努めて いるが、日々研鑽を深めていくことがかなり必要であるとともにダイナミックな 遊びに向かっていける様にすると、行事にとらわれずに何気ない日常の保育が さらに充実することが本来の保育の在り方と考える。 |
| 規則正しい生活習慣の定着に向けての 指導を行う。 | 基本的な生活習慣は、日々の保育の中で衣服の着脱・うがい手洗い・排泄は、 もちろんの事メリハリのある保育に心がけ話を聞く時は、しっかりと聞けるよう はじめのある生活に心がけている。 挨拶・感謝の言葉が年々子ども達の中から聞かれなくなっているので 自然と 言えるよう日々の生活の中で心がけていきたいと思う。 |

| 評価項目 | 取り組み状況 |
|-----------------------------|---|
| 自然の中でダイナミックに遊ぶ。 | 年々足を延ばして砂川の自然の国に行くことが少なくなってきているのが実のところである。計画をしっかりと意識的に自然の中に出向くという事をしていきたい。子ども達の様子や保育者の数などを考えると躊躇して近くのお寺の庭に出かけてしまうことが多い。職員数増員の面も考えていかなければならない。 |
| 園内研修をする。 | 今年度は、昨年度に引き続き全国幼児教育研究協会の研究協力園に委嘱される機会を得て「新幼稚園教育要領の実施状況の把握と理解推進の方策」という研究に参加ができ調査団の皆さんに普段の保育を見て頂くとともに 園内研修もしていただき大変多くの刺激をそれぞれが受けた。これからその経験を活かして保育にあたって行くのではないかと考える。 |
| 各研究会・研修会に積極的に参加し職員間で学びあう。 | 研究会は、全幼研・北私幼・支部研修会等に参加している。ただ、参加後のレポート提出にとどまってお互いの学びあいが少なく感じる。研修会参加後の発表の場を設けていきたいと考える。 |
| 園だよりや合同研修会を通して幼稚園の情報を発信していく | 幼稚園の情報に関しては、園だより・クラスだより・HP・FMラジオ等で発信しているが、内容充実とともに様々なツールを使っての発信にも挑戦してみたい。 |

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本来の幼児教育を発信していくことで 遊びを中心とした自由保育というものが理解されるのだと思うが、その発信が充分でなく、行事にとらわれることなく日常の中で子どもたちが 新幼稚園教育要領で謳われている『10の姿』をしっかり踏まえた保育の展開を行っていけるようにしていきたい。

職員間の連携をしっかりとばかり 共通理解ができるようにしていくことで一層よい保育ができるようになるのでは、無いかと考える。

保護者との連携では、大変な協力を得ることができ 日々の保育を始め運動会や生活発表会等に教師は、安心して子ども達と活動に取り組むことができている。

5. 今後取り組むべき課題

| | |
|------------|---|
| 特別支援教育 | インクルーシブ教育の観点から支援の必要な園児の理解を図るとともに健常児との関わり合いや支援の必要な園児が自己充実感を味わう保育のあり方を考える。関連機関の連携を密にし、教師の専門性を高めていかなければならない。 |
| 幼保小連携 | 三小との交流が主となった。児童との交流が徐々に軌道に乗ってきているが、連携先進地域との差は、大きいが少しずつ高めていきたい。教師間の交流は、研修会だけにとどまらずに深めていきたい。 |
| 保育指導計画の立て方 | 長期スパンでの計画を立て見通しをもって早めに計画実践を行うように心がける必要がある。きめ細やかな保育の実践、保育の質を高めるには、ゆとりをもって計画を立てる事が必要である。 |

6. 学校関係者の評価

もう少しお待ちください。

7. 財務状況

・公認会計士監査により 適正に運営されていると認められている。